

第1学年A組 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：自分の命を守る力を身につけよう

～災害の時、私たちは地域とどうつながり、どう命を守るか～

本単元で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に物事に取り組む態度】

指導者 呉市立明德中学校 江野脇 守

日時 令和3年12月14日（火）

場所 呉市立明德中学校 第1学年A組教室

学年 第1学年A組（男子4名 女子6名 計10名）

単元について

○単元観

本単元は、本質的な問い「わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか」を基に構想した。本校区では平成30年7月6日に起きた西日本豪雨により、土石流や浸水により多くの家屋・道路などが被害を受け、貴重な人命が奪われた、地域に生きる生徒が、この体験や記憶をもとに、今後予想される土砂災害や南海トラフ地震などの混乱の中で、自分自身や家族・仲間の命をどう守っていくか、「自分にできること」という視点から自ら設定した課題を解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に物事に取り組む態度】を育成することをねらいとしている。

本校では、これまで2年生の「総合的な学習の時間」で、平成30年の豪雨災害をモデルに地域のハザードマップを作成し、安全な行動について考える学習を行っている。また、全校生徒への救急救命法（心肺蘇生法）講習も毎年行っている。今年度は、これまでの防災学習に加えて、土砂災害に関する防災出前教室（県土木建築局砂防課による）や地震における不測の状況の発生を想定した避難訓練を実施する等、より災害時の状況をイメージして防災意識の向上を図る取組を実施している。生徒は、自分たちにできる命を守るための備えを学び、行動に繋げるという目的意識をもって探究することができると思う。

本単元では、災害の時に何が起きるかをイメージし、命を守るために必要な知識や、自分にできる技能を身につけることで、生徒一人一人が自分の生活や行動に生かそうとする思いを持つことができることを期待している。このような学びの姿は、授業者が設定した本質的な問いを基にした探究的な学びを具現化するものであり、本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると考える。

○生徒観

本学級の生徒は、これまでの学習の中で、課題解決に向けて資料や情報を収集・整理したり、仲間と話し合っ自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになってきている。しかし、生活アンケートでは、「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある。」が70%、「土砂災害から自分の命は自分で守るために、学校では、どこに避難するか、自宅からはどこに避難するか知っている。」は90%の回答であり、地域や防災についての意識はまだ十分であると言えない。また、「授業で学習したことを他の教科や普段の生活の中で活用できないか考えている。」「授業では、情報を比べたり(比較)、仲間分けをしたり(分類)、関係を見付けたり(関連付け)して、何が分かるのかを考えている。」は共に90%と高くはあるが、普段の学習活動の様子からは、相手を意識し、表現を工夫して発表する力は十分ではないと考えられる。

生徒は「呉市学校防災週間」の取組をはじめ、これまでも防災について学んできたが、災害への意識には個人差がある。そのため、「自分事」として学習に取り組める探究的な活動を仕組み、自分や自分を取り巻く家庭・地域の生命の安全を守っていく意識をもたせる必要がある。

本単元に関わる事前アンケート結果

○今後、総合的な学習の時間で取り組みたい内容

土砂災害について…0% 津波災害について…60% 地震災害について…60%
豪雨災害について…30% 高潮災害について…40% 火災について…20%
災害への備え…30% 災害時の行動について…20% 避難所での生活について…40%
災害ボランティアについて…30%

○災害から自分や家族・仲間の命を守るために、具体的に知りたいことや身につけたいこと

- ・避難する時に、以前紹介された〇〇さんの自主勉強（ツナ缶のランプ）みたいに、身近にあるもので作ることを身につけたい
- ・ともだちと外で遊んでいる時に災害が起きた時の行動
- ・家族でどんなことを話したらいいのかが具体的に知りたい
- ・一人でいる時、地震や津波が起きた時の行動
- ・状況にあわせて、命を守ることができる行動の仕方
- ・災害がおきたとき、自分たちでもできること
- ・火災がおきたときどうしたらいいのかが知りたい
- ・子供がいる時どう避難すれば良いのかが知りたい
- ・家族の人たちの無事を確認する方法
- ・避難する時に必要なもの
- ・避難準備に必要な道具
- ・この地域で一番危険な災害は何か
- ・災害時の時の避難経路を覚える
- ・どういう時に災害が起こりやすいのか
- ・危ない場所

○指導観

指導に当たっては、次の2点に留意する。

①【生徒が自ら問いを見いだすためのしかけ】

単元を通して、本質的な問い「わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか」を意識させ、「自分と地域とのかかわり」や「自分の生き方」に係って、生徒が自ら問いを見出すことや、新たな問いを見出すことができるよう、しかけを入れて単元構成を工夫する。

単元前に、赤十字による心肺蘇生法の講習（10月15日）で、応急手当の重要性和、家族や身の回りの人の命を守るために自分に何ができるか考えさせるきっかけとする。

第1次では、「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉（防災グッズ編）」と「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉（天ぷら油火災編）」（いずれも防災ゲーム研究会編）の2つの防災ゲームを実施し、防災に関する知識を身につけさせる。災害に備える防災グッズの重要度と、火災に直面したときの正しい行動について、なぜそれが重要なのか、なぜ正しいのかという問いを持たせ、自分の事として考えさせていきたい。

第2次では、避難訓練（生徒への予告をせず、清掃の時間に訓練を行う。状況の変化に合わせて最適のコースで避難路を考えさせる。）の実施に合わせて、「防災教育教材『災害状況を想像する力を身につけよう』（協力：東京大学生産技術研究所目黒研究室）」に地震発生後の自分や家族、隣近所や学校の状況を想定して記入し、どんな問題が発生するのか、自分はどう行動するべきか、時系列に沿って状況や課題をイメージさせることで問いを持たせていきたい。

第3次では、第1次・第2次の内容を基に、自分が身につけたい課題について調べ、発表する活動を通して、自分達のできることにについて考え、情報を収集して実行につなげていく力を涵養したい。

②【探究的な見方・考え方を働かせるための各教科等との関連】

探究的な活動を支える土台として、探究的な見方・考え方を働かせることをより重視し、各教科等との関連を意識して、単元を構成する。

保健体育科での心肺蘇生法の講習や、地震を想定した避難訓練と取組の時期を合わせることで、災害が起きたら自分はどう行動するか、自分事として捉えさせることを意識した。また、第3次での課題解決や発表の場面は、理科・国語科（スピーチ）・家庭科などでの学習との関連を意識させていきたい。

単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- 防災に関する知識を学び、災害の状況を想像する中で、自分が身につけたい力を課題として設定したり、必要な情報を収集したりしながら、「自分の命は自分で守る」ためにできる防災について考え、実践に生かすことができる。

【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に物事に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ① 災害から生き延びるために必要な物品・行動などについて、その根拠や効果とともに理解している。 ② 調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。 ③ 自分の命を守る知識や技能を身につけることが、地域と自分たちとのつながりを育てていくことに深く関わっていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害の状況の中で、自分や身の周りの人の命を守るために何をどうすることが必要か、課題を明らかにしている。 ② 防災に関する課題を解決するために必要な情報について、多様な方法で収集・整理している。 ③ 相手や目的に応じて、ICT機器を活用するなど伝え方を工夫して、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害を自分事として捉え、課題解決のための方法を考えようとしている。 ② 自分と異なる意見や他者の考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。 ③ 自分と地域とのつながりを意識しながら、自分ができる防災を考えようとしている。

指導と評価の計画

本時は14 / 16 (全16時間)

〈本質的な問い〉わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか。

【単元を貫く課題】自分の命を守るために、災害の状況の中で自分たちには何ができることは何だろうか。

次 (時)	学習内容 【他教科等との関連】	評 価	
		評価規準 (評価方法)	資質・能力
一 (4)	<p>課題の設定</p> <p>「自分の命を守るために、何を身につければよいだろう」</p> <p>○ これまでの防災学習を振り返り自分が取り組みたい活動を考える。(1時間)</p> <p>【保健体育科】心肺蘇生法実習</p> <p>情報収集</p> <p>○ 防災ゲーム(「ぼうさいくダ・ズ・ン」(防災グッズ編))と「ぼうさいくダ・ズ・ン」(天ぷら油火災編)に取り組み、災害への備えや発生時の対応について学ぶ。(1時間)</p> <p>○ 解答を基に、災害時のよりよい対応の仕方について知る。(1時間)</p> <p>整理・分析</p> <p>○ 防災ゲームの自分の解答・グループでまとめた解答と正答とのずれの原因について考える。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害の中で自分の命を守ることへの課題を発見し、解決意識をもっている。(ワークシート, 発言) 自分の考えが、自分や周囲の人の命を守ることにつながっているかどうか考えようとしている。(ワークシート, 発言) 防災グッズの重要性や活用法、火災対応のしかたや理由などを理解している。(ワークシート, 発言) 自分と仲間の考えや発言をどのように生かせばいいか考えようとしている。(ワークシート, 発言) 	<p>思考力・判断力・表現力①</p> <p>主体的に物事に取り組む態度①</p> <p>知識・技能①</p> <p>主体的に物事に取り組む態度②</p>
二 (2)	<p>新たな課題の設定</p> <p>「災害の中で自分の身に何が起こるかを考えよう」</p> <p>情報収集</p> <p>○ 震度6弱の地震とはどういうものかを知る。(1時間)</p> <p>【学級活動】避難訓練</p> <p>整理・分析</p> <p>○ 震度6弱の地震が起きたら自分の身にどういうことが起きるか、情報をもとに時系列で考える。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 震度によってどのような被害が出るのか理解している。(ワークシート, 発言) 災害の状況の中で、自分や身の回りの人の命を守るために何をどうすることが必要か、課題を明らかにしている。(ワークシート, 発言) 	<p>知識・技能②</p> <p>思考力・判断力・表現力①</p>

新たな課題の設定

「命を守るための技を身につけ、みんなに広げよう」

- これまでの学習を基に、自分が身につけたい課題を設定する。(1時間)

情報収集

- テーマ別グループで発表計画を立案し、自分の課題解決に向けて必要な情報を収集する。(5時間)

整理・分析

- 収集した情報を整理し、効果的な発表の仕方を考える。(2時間)
【本時 2/2】
【国語科】スピーチ

まとめ・表現・振り返り

- テーマ別グループ間で交流を行う。(1時間)
- 学習の振り返りを行う。(1時間)

- ・ 災害を自分事として捉ええ、生き抜いていくために自分に必要なものを考えようとしている。
(ワークシート, 発言)
- ・ 防災に関する課題を解決するために必要な情報について、多様な方法で収集・整理している。
(ワークシート, 発言)
- ・ 参観者を意識して、分かりやすい表現になるように発表の仕方を考えている。
(ワークシート, 発言)
- ・ 自分の命を守る知識や技能を身につけることが、地域と自分たちとのつながりを育てていくことに深く関わっていることを理解している。
(ワークシート, 発言)
- ・ 自分と地域とのつながりを意識しながら、自分ができる防災を考えようとしている。
(ワークシート, 発言)

主体的に物事に取り組む態度①

思考力・判断力・表現力②

思考力・判断力・表現力③

知識・技能③

主体的に物事に取り組む態度③

本時の展開

本時の学習

(1) 本時の目標

交流に向けて、分かりやすく効果的な発表の工夫をすることができる。

(2) 本時の評価規準

参観者を意識して、分かりやすい表現になるように発表の仕方を考えている。
【思考力・判断力・表現力③】

(3) 学習の展開（第14時／全16時間）

分	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
3	1 これまでの学習内容を振り返り、本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく効果的な発表になるポイントを示す。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> 分かりやすく効果的な発表になるよう、グループで協力して工夫しよう。 </div>			
25	2 グループに分かれて発表のリハーサルを行い、互いに見合う。 Aグループ（応急手当法） <ul style="list-style-type: none"> 止血・骨折の手当・負傷者の運搬について、実演を用いて理解してもらおう。 Bグループ（避難グッズ） <ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出し袋の内容や災害時に必要な物資・食料などについて知ってもらおう。 Cグループ（サバイバル術） <ul style="list-style-type: none"> 浄水法や、学校から安全に帰宅する方法などを知ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 話し方【声の大きさ、話す速度、間のとり方、視線、身振り手振りなど】 ② 話の構成【冒頭部の工夫、「はじめ・中・終わり」の組み立て方など】 ③ 話の内容【伝えたいことは明確だったか、興味を持てたかなど】 	
10	3 リハーサルの評価を伝え合い、参観者側からのアドバイスを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを用いて、参観者のメモ（見合う視点を示したワークシートを準備して配布する）を交流させることで時間短縮を図り、練習や準備の時間を確保させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観者を意識して、分かりやすい表現になるように発表の仕方を考えている。【思考力・判断力・表現力③】 (ワークシート、発表・発言)
8	4 アドバイスを基に、本番に向けて、発表を練習する。		
4	5 振り返りをする。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返り例 <ul style="list-style-type: none"> ○ もっとゆっくりと説明した方がいいというアドバイスをもらった。余裕を持って発表できるよう、話す内容を絞りたい。 ○ 実物を見せてもっと興味を持ってもらえるように準備しておきたい。 </div>			

この単元で育成を目指す資質・能力に関わる成果と課題

この授業を実施した翌日（次時）、自分の所属するグループ以外の生徒と3年生を対象にした発表会を実施した。生徒はお互いへのアドバイスや自身の振り返りを基に、発表方法に工夫を加えたり、声の大きさやスピード、視線や手振りなどを意識したりしながら、前回の発表を洗練させていた。

【リハーサル時】



【発表会本番】



（生徒のワークシートから）

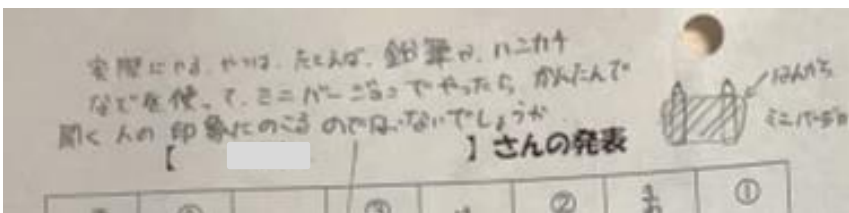
○リハーサル時の振り返り
 「視線が時々前を向いていた」というアドバイスを受けて「できるだけ前を向いて言えるようにしたい。」

リハーサル時は見せるだけだった簡易トイレに自分や参観者を座らせるよう改善した。

○発表本番の振り返り
 「トイレに実際に座った」
 【参観者からの感想】
 「発表の内容・紹介の仕方が面白かった」



発表本番の時に、割り箸とタオルハンカチでたんかを作り、作る手元の様子をiPadで映し、参観者に見やすい工夫をした。



【リハーサル時のグループメンバーからのアドバイス】

他にも、実際に添え木の实演や濾過器を作った実演、リハーサル時にはなかったクイズを取り入れるなど、伝え方を工夫している生徒の姿が見られた。



【生徒の振り返りより】

- ・グループの人のおかげで本番までにいい感じに仕上げることができた。
- ・他の人が発表していた内容や、自分が調べたことを家族などに伝えて、実際に動けるようになりたいです。
- ・もっと災害のことについて調べてみる。
- ・今度は小学生のみんなに発表したいです。
- ・これから災害などが起きたときには少しでも役に立ちたい。
- ・〇〇さんの発表を聞いて、避難する時の道具を準備しておこうと思った。

【資質・能力に関わって】

〈知識・技能〉

○成果

- ・「防災ゲーム」を行い、楽しみながら自分事として考えることを通して、物品・行動の根拠について理解することができた。
- ・ICT機器を活用して、効果的な情報収集・整理をすることができた。
- ・防災の知識や技能についてもっと知りたい、身につけたいという振り返りが多く見られた。

○課題

- ・「地域や家族の役に立ちたい」という思いを持っている生徒もいるが、まだ地域との関わりを意識して学習を進めるまでには至っていない。今後、第2学年「家族や身近な人の命を守る」、第3学年「地域の人々の命を守る（避難所運営を学ぶ）」につなげ、地域とのつながりを明確に意識できるよう学習を進めていきたい。

〈思考力・判断力・表現力〉

○成果

- ・「総合的な学習の時間」での「防災ゲーム」体験だけでなく、避難訓練・救急救命講習など行事や他教科の取組と時期を合わせることで、災害の際、何が必要であり、自分がどう行動する必要があるかを身に迫って考えさせることができ、課題を設定することができた。
- ・ICT機器を活用して収集した情報をそのまま示すだけでなく、仲間のアドバイスを受けて実物を作ったり、クイズや実演を取り入れたりするなど、相手や目的に応じて分かりやすく伝える工夫ができた生徒が多かった。

○課題

- ・小学生や地域のお年寄りなど、発表を聞く側の立場に合わせて発表をどう工夫すればいいか、考えさせる場面や聞き手を意識した表現の場を多く設定していきたい。

〈主体的に物事に取り組む態度〉

○成果

- ・「防災ゲーム」など行事や他教科等の取組と連動させることで、災害を自分事として捉え、意欲的に課題解決のための方法を考えようとする姿勢が見られた。
- ・互いのアドバイスをもとに発表の方法（姿勢や構成、実演やクイズの導入など）を工夫していた。また、発表会では、予定になかった3年生の参観があったが、3年生からの反応や評価・アドバイスをさらに生かしていこうとする意欲につながった。

○課題

- ・発表することで、自分の学びがどう変わったか、振り返る時間を十分に取るべきだった。
- ・自分と地域とのつながりを意識しながら、自分ができる減災にどう取り組んでいくか、自分の言葉でまだ表現できない生徒が多い。今後の取組の中で振り返らせていきたい。